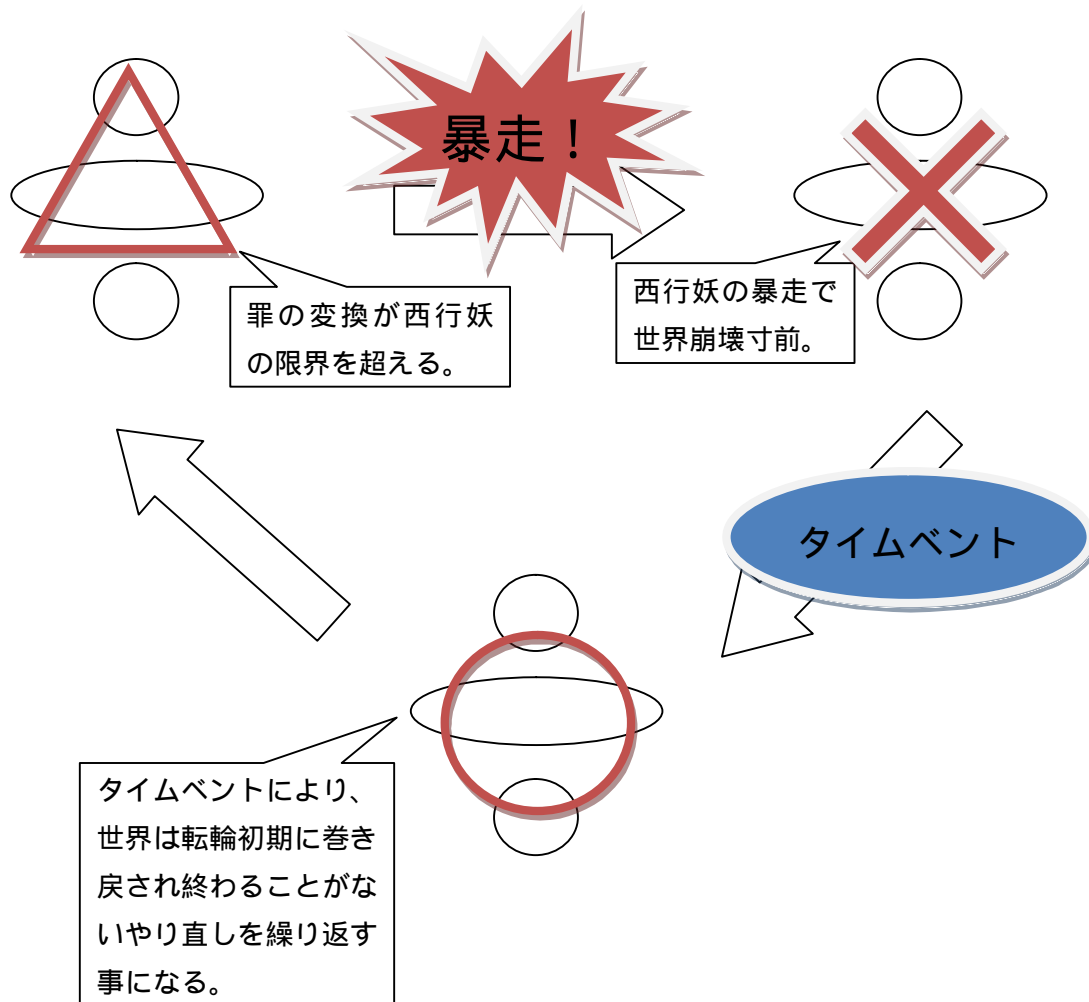


東方異邦人 / 妖々夢設定 (ver. ネタバレ)



・ 永世転輪計画の破綻 / 転輪の崩壊

「永世転輪計画」において、当初の想定を遙かに上回る罪が輪転路に流れ込み、罪の濾過が行われずに、澱の異形が増大。西行妖の同期している幽々子による罪の変換も間に合わずに世界は罪で溢れかえる事となり、西行妖は罪の悪意に汚染されエネルギー過多による暴走をおこしてしまう。死から解放され恐れることがなくなった人間の傲慢なエゴが原因であり、あらゆる罪業が予想以上に膨れあがる事によってこの破綻は引き起こされる事となった。

・ 西行妖の暴走による世界の崩壊 / 全てが無に還る滅び

西行妖の暴走を放逐すれば、罪のエネルギーは臨界に達し西行妖を食い破り世界を喰らいつくし、全てを無に還す。これはこの世界に止まることなく他世界にまで浸食し、世界を破滅へと突き落としていく。

・永世再輪計画 / やり直しの転輪

タイムベントにより、世界の崩壊寸前から転輪初期の段階に戻すことにより世界の崩壊を食い止める計画。計画と名付けられているが、魂魄妖忌のみで行われているものである。

最初のやり直しは世界の崩壊の様子を見せつけられた妖忌が、幽々子だけでも救おうとするが幽々子の「世界を救って欲しい」という願いと共に1枚のアドベントカードを託され決行したものである。妖忌は、幽々子一人に罪を投げつけてのうのうと生を貪る人間のエゴに絶望し、世界の崩壊を望んでいるが彼女が愛した世界を守るためにやり直しの選択をした。

初期の転輪は妖忌と幽々子だけであったが、気づかぬうちに妖夢という存在が確定されていた。妖忌は当初、この不確定存在に期待したが結局の所再輪は揺るぐことがなく続いて行くこととなった。

再輪は、999回続いており、妖忌はこの全ての記憶を引き継ぎいていっている。

・魂魄妖忌

タイムベントによる世界のやり直しを続ける半人半霊の剣士。

転輪計画の発動から崩壊。そして、再輪計画の全てを見届け記憶している唯一の人物でもある。

幽々子の愛した世界を守護する事を誓うも、彼女を救う事ができず永遠に苦しませる事に苛まれている。せめて、転輪開始からの儚くも短い夢を幸せなものにしようと尽力をつくっていたが、次第に悪夢を繰り返しているだけだとすり切れていき、只やり直しを繰り返すだけになった。

・タイムベント

西行寺が所有していたアドベントカード。

通常発動であるならば時の流れをみる程度であるが、大出力のエネルギーを加圧することによって直接、時の流れに干渉することができる。

西行寺の発展はこの符の力があつたからであり、幽々子が計画を打ち出したのも、この符の力で未来の滅びの流れをみたがためである。

妖忌はこの符を西行妖のエネルギー臨界に達したときに使用し、解き放たれた莫大なエネルギーを利用する事によりやり直しの転輪を造りあげ確定している。

初期の転輪以後、このカードは妖忌が持つこととなった。

・魂魄妖夢

歪な世界のやり直しを正常に戻す為に、世界が創造したカウンター存在。

本人に、その自覚はなく無意識下でプログラムされている。その為に、カウンター存在としての記憶はない。タイムベントを使用する妖忌を殺そうとするも全ての回で返り討ち

にあい、失敗している。しかし、微量ではあるが敗北の経験が蓄積され彼女を強化している。物語後半でこの真実に辿りつく。

妖忌は妖夢の真実に気づいているが、さして歯牙にかけられる事もなく戯れ程度に剣術を仕込みやり直しを続けている。

本来、世界が本来の流れである滅びを望み造りあげたものであったが、霊夢達に出会う事によって、幽々子と世界を両方救う決意をする。

・その先にある世界

霊夢達によって元の形に戻された世界。暴走によるあふれ出した罪の悪意を妖夢の LFS により全て整調し、純エネルギーの形に戻す。その力を用いて世界を紡ぎ、残されたエネルギーで世界に春を根付かせた。

転輪していた世界の残滓故、世界全体に転生の概念が定着し、人間は死を消滅の恐怖で逃げ出すものではなく、向かい合うべき旅立ちとして受け入れるものとなった。